



(都) 沼津南一色線の基本理念について

＜資料目次＞

1. 基本理念	1
2. 設計上重視する事項	2

1. 基本理念

南北都市軸の強化とともに、歴史を重んじ、地域のつながりを大切にする“みちづくり”

(都)沼津南一色線は、沼津の中心市街地への玄関口に位置し、国道1号と国道246号、東名高速道路及び近隣市町をつなぐ主要な幹線道路になります。また、国道1号を経て、南部に位置する沼津駅や沼津港にもつながっていく、沼津市の都市構造にとって最も重要な南北道路です。本路線の周辺交通状況は、江原公園交差点周辺の国道1号や周辺の幹線道路の慢性的な渋滞により、渋滞回避のために地域内道路へ流れ込む車両が増加し、通学路等の交通安全性の低下など課題があります。このため、本路線が整備されることにより沼津市北部の交通ネットワーク機能が改善され、周辺の慢性的な渋滞解消や地域内道路の安全性の向上が期待されております。

高尾山古墳は、(都)沼津南一色線の事業実施中に道路建設予定地内で発見されましたが、築造が西暦230年頃、埋葬が250年頃と考えられており、古墳時代初期の東日本における最古級かつ最大級の古墳であります。

かつて、高尾山古墳の後方部には高尾山穂見神社が、前方部には熊野神社が鎮座していました。現在は、東側隣接地に移転されておりますが、毎年、地域と密接した祭典が行われており、境内には熊手やお宝縁起物、周辺道路には各種露店が約300立ち並び、一晩中参拝者の絶えない祭典であり、170年の歴史を誇る地域の伝統行事となっております。

このようなことから、この地における都市計画道路の整備を行うことにより、沼津市の南北都市軸が強化されると共に、特色ある歴史資源と一体的に景観の形成を図ることで、シンボル性の高い施設となるものと考えられます。

2. 設計上重視する事項①

■ デザイン

- ・ 道路構造物と高尾山古墳を含む周辺までを一体的な空間として整備することで、沼津市のシンボルとなる施設とすることを目指す。
- ・ 橋梁やトンネルといった耐力及び安全性を求められる土木構造物は、重量感や圧迫感のある構造となりがちである。今回の計画においては、あくまでも主役は古墳であり、道路構造物は古墳を引き立てるための脇役としてシンプルかつ構造上無駄のないフォルムとする。
- ・ 道路構造物、道路付属物が古墳への眺望を阻害せず、一体的な空間の中で古墳の景観に上手く馴染むようトータルデザインする。

● 橋梁

- ・ 道路の最急縦断勾配の基準値を満たす範囲内で、橋梁の構造形式はスリムでシンプルなフォルムのデザインとする。
- ・ 橋梁下では、古墳空間を体験し見学者が回遊できるような桁下空間の確保や、古墳の景観と調和する桁裏や橋脚のデザインとする。

● トンネル

- ・ 国道1号より北へ向かい、ランドマークである墳丘部の下部を潜り進むトンネルでは、古墳と地形に馴染んだ坑口形状、トンネルに進入する際は心理的に圧迫感を与えないデザインとする。

● 付属物

- ・ 照明灯や防護柵などの付属物の配置や形式は、古墳を引き立て周辺の住環境に馴染むような洗練されたデザインとする。

● 道路景観

- ・ ドライバーから見る道路景観において、走行時の安全性を確保しつつ、古墳と道路構造物が一体となりシンボリックに洗練された施設となるデザインとする。

2. 設計上重視する事項②

■交通安全

- ・ 地域住民や小中学校及び高校へ通学する児童及び生徒が、安全に**南北や東西へ**行き来出来るよう交通安全施設を整備する。
- ・ **景観に配慮**し、自動車の**安全で円滑な交通**を確保するための交通安全施設を整備する。

●歩行者

- ・ 地域住民や児童及び生徒を安全な動線に誘導するための交通安全対策の方策を検討する。
(誘導板、舗装（歩道部の着色等）、縁石、ラバーポールなど)

●自転車

- ・ 市道1672号線を境に北側は沼津南一色線、南側は側道や地域内道路を利用する動線の中で自転車が安全かつ円滑に走行できるような交通安全対策の方策を検討する。（誘導板、区画線、カーブミラーなど）

●自動車

- ・ 第4種第1級の規格の高い幹線道路であり、橋梁やトンネルといった複合的な構造を持つことから円滑な走行を促すための附属物を設置し、注意喚起を検討する。（案内標識、路面表示など）
- ・ 国道246号から南へ、下り勾配の縦断線形を走行し、凸型線形の橋梁を通過後すぐに国道1号交差点へ進入するため、**追突防止**や**速度抑制等**を目的とした交通安全対策の方策を検討する。
- ・ 注意喚起、交通安全施設は、乱立、乱表示による景観への阻害を極力回避し、形状・色彩の**景観統一**を図る。

2. 設計上重視する事項③

■維持管理

- ・点検、補修等の維持管理が**確実かつ容易**にできる構造及び使用材料等を選定し、建設費用、管理費用トータルでの**コスト削減**を図る。

●点検、補修等

- ・橋梁の点検、補修等については、目視点検や補修作業を行うための十分なクリアランスが確保できない箇所のメンテナンス対策を検討する。

●使用部材等

- ・橋梁、トンネル及び道路付属物の使用材料は、**極力容易に入手**できるものとし、また、補修、交換方法の**特殊なものは極力避ける**ものとする。

●雨水処理

- ・橋梁の雨水処理については、**古墳を汚損させない**排水系統とする。
- ・トンネル内の雨水処理について、ポンプの配置や性能、維持管理も含め最適なものとする。
- ・使用材料は耐久年数、費用などから、**ライフサイクルコスト**を考慮する。

2. 設計上重視する事項④

◆古墳の保存と利活用

高尾山古墳は**国史跡指定**を目指しており、整備方法としては古墳を**盛土復元により、公園利用**することを想定している。このため、古墳が道路構造物と隣接（重複）することに配慮した空間形成が必要であることから、道路整備の設計とともに古墳の空間設計を求めるものである。

◆古墳整備保護範囲

- ・見学者の回遊動線と周辺部の歩道などからの**アクセスポイント**を検討する。
- ・アクセスポイントに至る案内看板や路面標示等の誘導方法を検討する。

◆古墳区域

- ・後方部上面の埋葬施設や後方部上面に至る南北階段等の付帯施設のデザインを検討する。
- ・後方部上面からの転落防止や周辺部境界などとのフェンス等の設置による安全対策を検討する。
- ・周溝部の平面表示方法（土系舗装やインターロッキングなど）を検討する。

◆橋梁下部

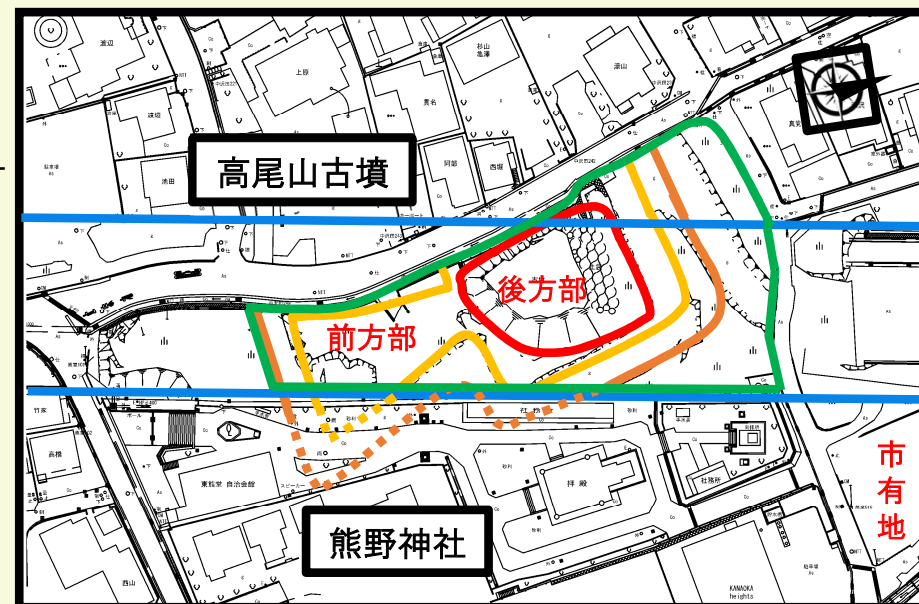
- ・**桁下空間の活用**方法を検討する。

◆後方部北側

- ・**ガイダンス機能**を有する広場及び憩いのスペースとしての活用方法（古墳説明板・ベンチ等）を検討する。

◆周辺部の活用と景観への配慮

- ・古墳北東部の**市有地についての活用**方法（見学者駐車場等）を検討する。
- ・電柱や看板等の適正配置による古墳を望むための視界確保を検討する。
- ・周辺から古墳を望むための**ビューポイント**の選定や方法を検討する。



2. 設計上重視する事項⑤

◆古墳の保存と利活用

～参考整備事例～

◆墳丘復元・周辺整備



京都府与謝野町 作山古墳群
墳丘復元



京都府長岡京市 恵解山古墳
階段設置



奈良県田原本町 唐古・鍵遺跡
溝状遺構



山梨県甲府市 銚子塚古墳
周溝部



山梨県甲府市 銚子塚古墳
埋葬施設



東京都府中市
武蔵府中熊野神社古墳
歩道表示



京都府長岡京市
恵解山古墳付近
道路標識



恵解山古墳通路柵

2. 設計上重視する事項⑥

◆古墳の保存と利活用

～参考整備事例～

◆ガイダンス機能



京都府長岡京市 恵解山古墳
説明看板



岐阜県大垣市 屋飯大塚古墳
ベンチ

◆周辺部の活用と景観への配慮



京都府長岡京市
恵解山古墳隣接跨線歩道橋



恵解山古墳隣接跨線歩道橋角
説明展示



恵解山古墳隣接跨線歩道橋から
古墳を望む